「楽しい＆エコ」なくらし、いっしょにはじめましょ♪

季刊 えこびと

第4号 2011夏

特　集：『緑のカーテン』始めました♪

定番コーナーも、ますますパワーアップ（！？）

とよたのまちネタ紹介

会員突撃インタビュー

エコメン、み～つけたっ

このミニ冊子は持続可能で豊かな地域社会（エコライフとよた）の実現を目指す
NPO 法人とよたエコ人（ひと）プロジェクトが発行しています

特集：　『緑のカーテン』始めました♪

２月に開いたエコ人理事による「新規事業検討会」で、エコ人が掲げる「楽しい＆エコ」にぴったりの「緑のカーテン」を、私たちの新事業としてスタートしました。夏の節電にも、もってこいですよ。

今年は１年目ということで、なるべくたくさんの方々にお手伝いいただきながら、私たち自身が eco-T で試行的に栽培して、ノウハウを蓄積します。また、eco-T に来る小学４年生を中心に、実際に目にしてもらうことで、緑のカーテンを PR します。また、成長の様子等をブログや季刊誌で発信して、幅広い対象への PR を図ります。

緑のカーテンでは、「野菜類を栽培すると、採れすぎて困る」という声もあることから、つる性果樹のパッションフルーツの育成も試行中です。実ってうれしい果樹でつくれることを実例で示して、「やってみよう♪」と思うきっかけをつくりたいと思います。

今年度の試行終了後には簡易報告書を作成し、12 月に報告会を開催する予定です。採取したタネは、次年度以降、家庭等で取り組んでもらうために、報告会等の場を利用して配布したいと考えています。

また、自宅で「緑のカーテン」に取り組むみなさんから情報をお寄せいただく「自宅 de 緑のカーテン 市民リポーター」を募集したところ、６月末までに３件の報告があり、ブログで紹介しました。ちょっとした工夫や貴重な成功談・失敗談（？）をどんどん共有して、みんなで「緑のカーテン」を広げていきましょう♪

この事業は、岐阜県関市の「関むぎパッションフルーツ組合」の協力を得て実施し、「23 年度あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業」の助成金を活用しています。　（緑のカーテン企画チーム）

大盛況だった「緑のカーテン育て方講習会」

５月 22 日（日）の午前中、バラが美しく咲きそろった西山公園で「緑のカーテン育て方講習会」を開催しました。参加者は 30 名。参加されたみなさん、苗は順調に育っていますか？

講習会のメイン講師を務めてくださったのは、「緑の相談員」の谷澤隆さん。お話がとっても面白くて、楽しみながら多くの実用的な知識を得ることができました。

適する植物の種類とそれぞれの特徴、１カロリーとは・・・、気化熱と緑のカーテンの冷却効果のこと、連作への注意、プランタの賢い使い方、ネットの取り付け方と台風対策、etc。理科や生物の授業がこんなふうだったらよかったなあ・・・。

関むぎパッションフルーツ組合の古池さんからは、パッションフルーツの魅力や育てやすさ、壁面緑化や緑のカーテンにも向いているというお話をお聞きしました。パッションフルーツのリーフ・ティーの試飲もあって、不思議な味を知りました。

ビニールハウスの中で行った講習会は、途中で豪雨になり、一時、話が聞こえなくなりました。小降りになったとたんに質問が活発に出される様子を見て、みなさんの関心の高さを感じました。（長嶋一枝）

参加者の声（アンケートより）

・（緑のカーテンと）よしず等との（冷却の）違いがわかった
・まきひげタイプとアサガオの伸び方の違いを知って、なるほど～と思った
・やみくもに始めなくてよかった。選び方もよくわかった
・虫、病気など注意点があり心配ですが、とりあえず１回やってみます

eco-T で緑のカーテンを育てています♪

５月 22 日（日）の午後、インタープリターのみなさんをはじめ総勢 18 名で、雨の中、eco-T の１階と３階に緑のカーテンを設置しました。「木づかい市民ネット」さんに特別注文して地元の間伐材でつくっていただいた「プランタ」に土を入れ、三河湾の海苔養殖網のリユース品の「ネット」を張って、ヘチマ、ヒョウタン、ゴーヤ、パッションフルーツ（くだものトケイソウ）等を定植しました。

緑のカーテンは、すだれや布のカーテンとは違い、涼やかな緑色の木漏れ日が人の心をいやし、植物の葉からの蒸散作用により、気温の上昇を抑えます。きれいな花と実の収穫も楽しみです。（南谷五郎）

くらしと自然のつながりを知ろう！

とよた環境フェスティバルを開催しました♪

６月４日（土）に、豊田市制 60 周年記念、エコット開館４周年、自然観察の森新ネイチャーセンター開館１周年を記念した盛大なイベントを自然観察の森で開催しました。

カンバッチづくり

エコバックに描こう

くるくるソーセージ

森の俳句

エコ屋台村は大人気で、インプリさんがレクチャーし、エコクラフトなどを楽しみました。森の青々とした緑と、参加者のきらきらとした笑顔が印象的でした。来年のエコット５周年に向けての目標もできました。（上田有美）

「もりもりバザー」ってなあに？

とよたのまちネタ紹介　第３回

猿投グリーンロードの力石インターを出て、両脇に迫る山々に囲まれながら緩やかに上る国道 153 号線を足助方面に４キロ進むと、ちょうど坂の天辺に、おいでんバス「野口町」のバス停が見えます。そのすぐ横に佇む築 100 年の立派な古家。ここで昨年末、小さなバザーが行われました。

生まれ育った里山で、障がいがあっても豊かに生きられる地域づくりを・・・石野地区に住む親の会“森音（もりね）の会”と、この思いに共感した豊森なりわい塾のメンバーが、小さな活動を始めました。そして、この子どもたちが将来、「地域で出来ること」を身に付け、地元の人たちに認めてもらい、助け合って暮らせるようにと、元商店だった古家を開け、子どもたち、地元の人、街の人の交流の場を目指して、チャリティーバザーを企画しました。森音の“もり”と、豊森の“もり”を足して“もりもりバザー”と名づけました。

このバザーの魅力は、何と言っても地域の優しさが醸し出す、柔らかな雰囲気。地元の方が持ち込む陶器や食器、古布で編み上げた草履、繊細で色鮮やかなトールペイントなど、数多くの品々が所狭しと並びます。土間には、地元の野菜、山菜、漬物、ハチミツ、ミルクジャムと、どれも美味しそう！地元の材で作る足助の家具屋、三河木綿の手織布など、自然素材を生かした製品に興味津々！街から来た家族連れが竹寒天や筍ご飯に舌鼓をうち、地元のおばさまは、お店自慢の“手づくりワッフル”とコーヒーで会話が弾む。楽しみながらゆっくりと見て回り、思い思いに緩やかなひとときを過ごしています。

５月のバザーでは、森音のお父さんたちがお手伝いに参加。早朝から大量の筍を掘り出し、正にガレージセール！　お母さんたちも自分の得意技で、楽しく活き活きとバザーに取り組んでいます。もりもりバザーが少しずつ地域主体にシフトしていて、豊森なりわい塾のメンバーは今も繋がりを求めて、野口にやってきます。

大きな「もりもりバザー」は半年に一度、小さな「ぷちもりばざあ」は毎月第四日曜オープンです。今後は、子どもたちが参加できる環境づくりに、ゆっくりですが取り組んでいきたいです。まだまだお伝えしたいことがいっぱいですが・・・ぜひお越しください！

（梅原 彰：豊森なりわい塾第１期生）

もりもりバザー連絡先　　http://morinenokai.blog92.fc2.com/
★次回開催予定　　７月 24 日（日）13 時～（ぷちもりばざあ）

人と人との身近なつながりを大切にしたい

会員突撃インタビュー（第３回）

今回のゲストは、落合ひろ恵さん。eco-T のお近くにお住まいで、オープン当初からインタープリターとして活躍されています。

Q. はじめに、落合さんの趣味は何ですか?

A. 俳句を三十数年続けています。季節の花を見て感じたことを自分の言葉で詠いますが、今まで使ってきた言葉が暮らしの変化の中で死語になったり、日本古来の草花が少なくなることを寂しく感じます。気候の変化によって、人もずいぶん変わってきていますね。中でも昔からの行事を大切にしたいです。子どもたちはだんだん忘れていっていますが、七夕・お月見・お正月などは俳句の季語にもなっています。

それから、花づくりも好きです。差し芽で苗を増やして育てた苗を、近隣のごみステーションの横に置いておいて、ほしい人に持っていってもらっています。

日々追われることの多い生活ですが、歩くのが好きで近所を歩きながら、今しかない時間を楽しむようにしています。

Q. 最近、心に響いたことや感動したことを教えてください。

A. 東日本大震災です。映像で知るだけですが、心が痛みます。そこに映し出される人たちのくらしを思うと、人と人との心だと思う。

漁業も栄え、もともと人と人との絆がある暮らしの中で、その繋がりがもっと深くなっているように感じます。

自分の生活をふりかえると、自分中心で生活していることがわかります。隣近所の人とは会わないことも多いのに、外に出てサークルなどで親しい人には会う生活になっている。東日本大震災があったことで、地域の人と人との繋がりを、より大切にしなければと思いました。

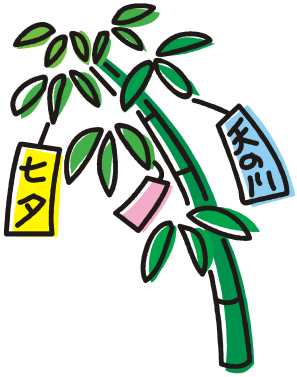
Q. 落合さんがほっと一息つける場所は？

A. 外を歩いているとき。山の中や田んぼなども好きで、鞍ヶ池公園や柳瀬公園にもよく行きます。日常が賑やかなので、静かな環境に身をおいて心を無にしたりすると、俳句やアイディアが思い浮かぶこともあります。

Q. eco-T やエコ人に、ひとことお願いします。

A. もう少し輪が広がって、会員が増えるといいと思う。それから、ここ数ヶ月 eco-T での活動をお休みしていたので、また活動に復帰したいです。

みんな、快適な生活に慣れ過ぎていて、エコに気がつかない。eco-T は、自分の知らないことを気づかせてもらえるところ。関心がなかった人でも、会員になると気付ける。自分を含め、一人ひとりが身近な小さな集まりの中に伝えていけたらいいですね。



＜インタビューを終えて・・・＞

一つ一つの言葉を丁寧に感じ取ってお答えいただきました。落合さんの優しい人柄が随所に感じられて、温かい気持ちになるインタビューでした。

（会員突撃チーム：野武審・岩月桂子・小泉達也）

地域の人に愛される“人材の育成”をめざして！

エコメン（エコなイケメン）、み～つけたっ（第３回）

今回のエコメン♪

小杉 裕一郎さん

オイスカ中部日本研修センター
所長代行
http://oisca-chubu.org/

「車は使わない」が目標です！

とは言っても、出勤が５時 50 分と早いため車での通勤ですが（笑）オイスカでは、エアコンは事務所と来客スペースだけです。暑くてもみんな自分からスイッチを押す勇気がないといった感じですね（笑）。今年はゴーヤを植えて、緑のカーテンにもチャレンジしていますよ♪

ひび割れたロケット鉛筆

はげ山の多いフィリピンに植林活動に行ったときの話なんですが、現地の男の子が別れ際に「おみやげ～！」と言って追いかけてきたんです。その手には、日本では見ることのないような、使いこんでひび割れたロケット鉛筆。窓にはガラスもなく電気も点かないような学校にいても、子どもたちの目は輝き、こんなに心がやさしい。このことに感動し、自分自身に、よりエンジンがかかりました！

タライの中の水のよう

東日本大震災を受けて、海外での植林活動を活かした被災地海岸林の再生や、被災地の子どもたちへ「森のつみ木広場」を届けるなどのさまざまな支援を計画、実施しています。海外からは、多くの支援金もいた

だきました。これまでの国際協力がこのような形になって日本に戻ってきたんだと思います。国際協力は自国の安全保障の一端も担っているんだと感じました。

日めくりカレンダーを集めてます♪

名言が書いてあるカレンダーがすごくおもしろいんですよ。トイレ、玄関、寝室と家にいくつもあります。たまに、忘れて束でめくることもありますが（笑）。最近の名言で「良いことがあったら“ありがとう”、腹の立つことがあったら“感謝します”と言おう」という言葉がありました。言霊を感じることが多くなりました。

ワクワクを届けたくて・・・

サラリーマンの安定におもしろさを感じられずに辞めて、みんなにワクワクしてもらえるような仕事をしたい、という思いでオイスカに入りました。幕末に吉田松陰が小さなスペースで人材を育てた「松下村塾」のように、世界各地で、「自分以外の周りのひとのために働けるリーダー」を育てていくことがオイスカの理想だと考えています。そして、その理想に少しでも近づくセンターにしていくことがわたしの夢です！ってなんかかっこいいこと言っちゃいましたね（笑）

（エコメンチーム：栗野理絵、長嶋一枝）

取材を終えて・・・

民族・地域（国）・宗教を超えて人が出会い育ちあう場「オイスカ」で、今の仕事が大好きと語る小杉さん。国際結婚の奥さんとの間に３人のお子さんがいて、国際交流・国際貢献を地で行く人でした！

エコ人の１年をふりかえって・・・

みなさんに支えられ、エコ人は６月１日から新年度を迎えました。１年の区切りとして、スタッフ＆理事が感じていることや「思い」をご紹介します。

昨年度は、共働提案事業をやらせてもらいました。行政と市民とNPOの関係性について課題をみつけるとともに、市民参画は地域づくりになくてはならないと実感しました。思いを形にしていけるよう、力を合わせていきたいです。（上田有美）

エコットの運営に携わってきましたが、目まぐるしい一年だったように思います。人の多様性を大切に、学びあいながら自分自身、そして「エコ人」もコツコツと活動を広げ続けていけたらと感じています。（栗野理絵）

「目に見える行動に移した活動」ができた１年で、理事として半歩前進できたかな、という感じです。「緑のカーテン事業」をしっかり見守りたい。今年は一人でも多くの人が会員になってくださるよう、はたらきかけていきたい。（岩月桂子）

eco-T の一般来館や施設利用が休止となってさびしい。エコライフ講座を交流館などで開催中だが、参加者募集に苦労している様子なので協力したい。緑のカーテンで育った実を食べられるのを楽しみにしています。（南谷五郎）

スタッフになって 1 年たちました。初めてのことが多いですが、周りに相談できる人がいたので、おかげさまでなんとか、こなすことができました。生活は一変しましたが、働くってこういうことなんだなと思いました（一週間の早いこと！）。今年は、少し先を見ながら、ぶれずにやっていきたいな。（松浦貴子）

一年前の自分が想像していた以上に、あわただしく、楽しい毎日を過ごしています。まだまだエコ人の力になれていないなと感じることも多いですが、あせらず、少しずつ形にしていけたらと思っています。（福間陽子）

季刊誌の中で「会員突撃インタビュー」を担当させてもらい、会員さんの普段知ることのない側面を取材しお伝えすることができ、楽しいひとときを体験できました。これからの１年、どんな風が吹くのかな・・・ちょっとわくわく。（野武審）

eco-T の運営を、豊田市民の団体として私たち「とよたエコ人プロジェクト」が担っての１年。目の前のことを一つずつ進めてきた１年でした。急に「ここが変わった！」とはいきませんが、自分たちで目指す方向を考えていきたいと思います。（小泉由美）

エコットへの途中に、今の季節、黄色いカンナの花がたくましく印象的に咲く所があります。「ああ、また暑い季節が来た。元気に逢えたね」って思う、マイポイント。エコ人の１年の区切りと重なります。（長嶋一枝）

eco-T 事務局を外から見るようになって１年。エコ人の理事には、インタープリターとして活動するメンバー、eco-T 事務局を務めるメンバー、どちらの立場でもないメンバーの３者がいます。eco-T と少し距離を置いているからこそ持てる視点を、大切にしていきたいと思います。（小泉達也）

よその団体から地元の団体が eco-T の運営を担うようになって、ますます追い風に乗って…とは、いきませんが、毎日が嵐のように過ぎ去る日々。3.11 や節電対策などを追い風に進みたいが、マストが持たないかなあ。（坂本竜児）

●主な活動記録一覧（4/1～6/30）

4月

4 日	eco-T23 年度事業計画説明会（5 日も）＆インプリ交流会
14 日	第 23 回（2010 年度 10 回）理事会
15 日	eco-T 運営会議
15 日	とよたエコドライブプロジェクト 新年度事業計画づくりワークショップ
23 日	豊森なりわい塾第 2 期生入塾式、24 日第 1 回講座

5月

7 日	猿投台交流館出前講座（6 月 4 日も）
9 日	23 年度共働事業提案制度説明会（市民活動センター） 22 年度エコドライブ共働事業の実践事例を報告
10 日	東海リポート　スゴまち２０（にじゅうまる）取材対応
13 日	eco-T 運営会議
14 日	豊森なりわい塾第 2 回講座（15 日も）
22 日	緑のカーテン育て方講習会（西山公園） ＆ eco-T に緑のカーテン設置
25 日	第 24 回（2010 年度 11 回）理事会
29 日	かえっこバザール＆エコ屋台村、台風の中開催 （ふれ愛フェスタ 2011 にて）

6月

1 日	eco-T（4 周年）＆エコ人の新年度スタート
4 日	とよた環境フェスティバル（自然観察の森） 豊森なりわい塾第３回講座
8日	期間展示「タイムスリップ 未来はどうなる!?」スタート
9 日	eco-T 運営会議
14 日	第 25 回（2011 年度 1 回）理事会
28 日	第 26 回（2011 年度 2 回）理事会

浜岡原子力発電所の運転停止に思うこと

政府の要請を受けて中部電力が浜岡原子力発電所の運転を止めてから、１ヶ月以上経ちました。６月下旬の猛暑が今後の電力需給のひっ迫をイメージさせたこともあり、東海地方の多くの人にとって、大震災の影響が急に身近になったのではないでしょうか。

私は、このごろ、たびたび思います。「浜岡停止のニュースを（中部電力管内に暮らす）みんなは、どんな風に受け止めているんだろう？」と。歓迎している？　ホッとしている？　困ったことになった、と思っている？　・・・それとも、なんとも思っていない（⇒ 自分には関係ないと思っている？）

「電気なんて、使いたいときに使いたいだけ自由に使えるのが、先進国として当たり前」などというコメントも、何かのテレビ番組で耳にしました。

私は、反原発の科学者、故高木仁三郎さんの生き方に感銘を受けて、「高木学校」という団体で一時期、活動させていただきました。そのことが、市民活動に携わるきっかけにもなりました。

一人の人間としての素直な感覚で、「原発に賛成」したい人なんて、一体どのくらいいるのでしょう？　本当に、日本や世界（経済）全体のために、原発が必要なのでしょうか？　その「必要性」は、今回のような事故のリスクに加えて、ウラン鉱石の採掘地や燃料加工工場や原発が立地する地域の恒常的な不安、現場の作業員への健康影響、事故のない通常運転時でも広くうすく排出され続ける放射能の予測しきれない影響、使用済み燃料や廃炉処理といった将来世代への重い足かせ・・・そういった負の側面すべてを凌駕するほどのものなのでしょうか？

私たちは、原発に代表されるような、“誰か”や“どこか”に我慢を強いる現在の社会に妥協して（目をつぶって）生きていくしかないのでしょうか？

一地域と全体が、一個人とみんなが、お互いに抑圧されずに、それぞれの在り方で、共存できる社会。そういう社会を目指したいと、私は思います。

今回の原発事故は、私が子どものころ、大人たちや社会に向けて「許せない」と感じていた【もやもやした怒りのようなもの】を思い出させます。大人になった私は、かつての自分からの問いに向き合わなくちゃいけない。

今の社会は「完成形」じゃない。まだまだ、いくらでも、良くなる余地がある。だったら、変えていこうじゃないか。今回の震災（原発事故）を機に、どれだけ多くの人が、そういう視点に立ちうるでしょうか。

私たち大人は社会の趨勢に流されがちで、変化を起こすのを面倒くさがっている。未来を思い、自分から動き出す力を持とう！　そんな、エコ人の理事Hさんおすすめの映画「ペイ・フォワード」が発するメッセージを思い出して、今こそが「変わるチャンス」だと、痛切に思います。　（小泉達也）

●おすすめイベントの紹介＆参加者募集（７月～９月）

日時	内容など
８月12日（金） 10：00～11：45	**eco-T 運営会議** 毎月１回、eco-T の運営を考える会議です。先月の活動のふりかえりや今後の活動の相談、インタープリターの情報交換等を行います。どなたでも参加できます。 ●場所：eco-T　●対象：eco-T の運営に関心のある方 ●その他：場内の駐車場は停められません。詳細はお問合せください。
９月10日（土） 14：00～16：00 申込は８/19（金）～eco-T まで	**使い捨てされるヒーローたち** 「新しいおもちゃを買って」とリクエストする子どもたち。なぜアニメに関連したおもちゃのサイクルは早いのでしょう？　実はそこには、子どもを「小さな消費者」にしていくカラクリが・・・？　子どもとおもちゃの関係を知り、大人と子どもの関わり方、消費者のあり方を考えます。 ●場所：高橋交流館 多目的ホール　●対象：中学生以上 ●講師：堀 孝弘氏（NPO 法人 環境市民） ●参加費：無料　●定員：30 名

会員継続のお手続きをお願いします（もちろん、新会員も募集中！）

６月１日からエコ人の 2011 年度が始まりました。会員の継続をしてくださったみなさん、ありがとうございました。本年度もよろしくお願いいたします。

ちなみに、2010 年度末の会員数は 53 名、1団体でした

正会員　10,000 円（議決権あり）
賛助会員　一般　1,000 円/口
　　学生　500 円/口
　　営利団体　10,000 円/口
　　非営利団体　3,000 円/口

編集後記

おかげさまで、エコ人は６月１日から新年度を迎えました。今回、１年のふりかえりの言葉をスタッフと理事から集めてみて、メンバーがどんな風に感じて活動しているか、あらためて知ることができました。（小泉た）

発行・編集　NPO 法人 とよたエコ人（びと）プロジェクト

2011 年７月発行

FAX　0565-42-2805
メール　info@t-ecobito.jp
ブログ　http://blog.canpan.info/eco-bito/　**←緑のカーテンの様子など**

連絡先 TEL（スタッフ勤務先）　0565-26-8058
【豊田市環境学習施設　eco-T（エコット）】
エコットのホームページ　http://www.eco-toyota.com/

私たちは豊田市から委託を受けて、環境学習施設 eco-T（エコット）を運営しています